

投稿規定

1. 投稿論文は、臨床心理学をはじめとする実践に関わる心理学の研究における独創的で未発表のものに限ります。基礎研究であっても臨床実践に関するものであれば投稿可能です。投稿に資格は問いません。他誌に掲載されたもの、投稿中のもの、あるいはホームページなどに収載および収載予定のものはご遠慮ください。
2. 論文は「原著論文」「理論・研究法論文」「系統的事例研究論文」「展望・レビュー論文」「資料論文」の各欄に掲載されます。「原著論文」「理論・研究法論文」「系統的事例研究論文」「展望・レビュー論文」は、原則として400字詰原稿用紙で40枚以内。「資料論文」は、20枚以内でお書きください。
3. 「原著論文」「系統的事例研究論文」「資料論文」の元となった研究は、投稿者の所属機関において倫理的承認を受け、それに基づいて研究が実施されたことを示すことが条件となります。本文においてお示しください。倫理審査に関わる委員会が所属機関にない場合、インフォームド・コンセントをはじめ、倫理的配慮について具体的に本文でお示しください。

- ・原著論文：新奇性、独創性があり、系統的な方法に基づいて実施された研究論文。問題と目的、方法、結果、考察、結論で構成される。質的研究、量的研究を問わない。
- ・理論・研究法論文：新たな臨床概念や介入法、訓練法、研究方法、論争となるトピックやテーマに関する論文。臨床事例や研究事例を提示する場合、例解が目的となり、事例の全容を示すことは必要とされない。見出しや構成や各論文によって異なるが、臨床的インプリケーションおよび研究への示唆の両方を含み、研究と実践を橋渡しするもので、着想の可能性およびその限界・課題点についても示す。
- ・系統的事例研究論文：著者の自験例の報告にとどまらず、方法の系統性と客観性、および事例の文脈について明確に示し、エビデンスとしての側面に着目した事例研究。以下の点について着目し、方法的工夫が求められる。
 - ①事例を選択した根拠が明確に示されている。
 - ②介入や支援の効果とプロセスに関して尺度を用いるなど、可能な限り客観的な指標を示す。
 - ③臨床家の記憶だけでなく、録音録画媒体などのより客観的な記録をもとに面接内容の検討を行っている、また複数のデータ源（録音、尺度、インタビュー、描画、など）を用いる、複数の研究者がデータ分析に取り組む、などのトライアングレーションを用いる。
 - ④データの分析において質的研究の手法などを取り入れ、その系統性を確保している。
 - ⑤介入の方針と目的、アプローチ、ケースフォーミュレーション、治療関係の持ち方など、介入とその文脈について具体的に示されている。
 - ⑥検討される理論・臨床概念が明確であり、先行研究のレビューがある。
 - ⑦事例から得られた知見の転用可能性を示すため、事例の文脈を具体的に示す。
- ・展望・レビュー論文：テーマとする事柄に関して、幅広く系統的な先行研究のレビューに基づいて論を展開し、重要な研究領域や臨床的問題を具体的に示す。
- ・資料論文：新しい知見や提案、貴重な実践の報告などを含む。

4. 「原著論文」「理論または研究方法論に関する論文」「系統的

- 事例研究論文」「展望・レビュー論文」には、日本語（400字以内）の論文要約を入れてください。また、英語の専門家の校閲を受けた英語の論文要約（180語以内）も必要です。「資料」に論文要約は必要ありません。
5. 原則として、ワードプロセッサを使用し、原稿の冒頭に400字詰原稿用紙に換算した枚数を明記し、必ず頁番号をつけてください。
6. 著者は5人までとし、それ以上の場合、脚注のみの表記になります。
7. 論文の第1枚目に、論文の種類、表題、著者名、所属、キーワード（5個以内）、英文表題、英文著者名、英文所属、英文キーワード、および連絡先を記載してください。
8. 論文から得られた知見の臨床実践への示唆について、1項目あたり100字以内で3項目記載してください。
9. 新かなづかい、常用漢字を用いてください。数字は算用数字を使い、年号は西暦を用いること。
10. 外国の人名、地名などの固有名詞は、原則として原語を用いてください。
11. 本文中に文献を引用した場合は、「…(Bion, 1948)…」「…(河合, 1998)…」のように記述してください。1) 2) のような引用番号は付さないこと。
2名の著者による文献の場合は、引用するごとに両著者の姓を記述してください。その際、日本語文献では「・」, 欧文献では「&」で結ぶこと。
3名以上の著者による文献の場合は、初出時に全著者の姓を記述してください。以降は筆頭著者の姓のみを書き、他の著者は、日本語文献では「他」, 欧文献では「et al.」とすること。
12. 文献は規定枚数に含まれます。アルファベット順に表記してください。誌名は略称を用いず表記すること。文献の記載例については当社ホームページ (<https://www.kongoshuppan.co.jp/>) をご覧ください。
13. 図表は、1枚ごとに作成して、挿入箇所を本文に指定してください。図表類はその大きさを本文に換算して字数に算入してください。
14. 原稿の採否は、『臨床心理学』査読委員会が決定します。また受理後、編集方針により、加筆、削除を求めることがあります。
15. 図表、写真などでカラー印刷が必要な場合は、著者負担となります。
16. 印刷組み上がり頁数が10頁を超えるものは、印刷実費を著者に負担していただきます。
17. 日本語以外で書かれた論文は受け付けません。図表も日本語で作成してください。
18. 実践的研究を実施する際に、倫理事項を遵守されるよう希望します（詳細は当社ホームページ (<http://www.kongoshuppan.co.jp/>) をご覧ください）。
19. 掲載後、論文のPDFファイルをお送りします。紙媒体の別刷が必要な場合は有料とします。
20. 掲載論文を電子媒体等に転載する際の二次使用権については当社が保留させていただきます。
21. 論文は、金剛出版「臨床心理学」編集部宛に電子メールにて送付してください (rinsin@kongoshuppan.co.jp)。ご不明な点は編集部までお問い合わせください。

(2024年3月10日改訂)